

在校生からのメッセージ

たきた れいな
滝田 怜奈

資源処理・精練プロセス工学研究室



国際資源学部を勧める理由

- 文理融合型学部のため、資源開発に関する学問を幅広い視点から学ぶことができる点
- 英語でのディスカッションやディベートのクラスがあり、教科としての英語ではなく、英語を使うということにフォーカスしている点
- 資源開発の最前線で活躍されている方などの出前講義や、資源学実習、フィールドワークなどから通常の座学だけでは得ることのできない知識・経験を身に付けることができる点

研究内容

学部時代は、浮選という鉱物分離工程の際に必要な捕収剤と呼ばれる鉱物表面を改質するための試薬の開発に関する研究をしました。理工学部の有機化学を専門とされる先生からご指導いただきながら新規捕収剤の合成を行い、研究室の先生からご指導いただきながら合成した新規試薬の特性を調べました。大学院では、銅鉱物をはじめとする硫化鉱物の分離に関する研究を継続して実施しています。

将来の希望

学部時代は地質や国際情勢に関する科目など、自身の専門(資源工学)ではない専門科目も自ら選択し、積極的に履修してきました。そのバックグラウンドを活かし、ただ自分の専門分野のみを学んでいた人とはまた違ったキャリア設計をしていきたいと思っています。

オフタイムにしていること

私は課外活動に全力！部活は体育会競技スキー部で主将を務めました。後期入試の面接で、“大学入学後は競技スキー部に入部し、インターカレッジで入賞したい！”と意気込んでいた私ですが、COVID-19の影響で最終年度は大会が開催されず、最高順位は2部14位と入賞には届きませんでした。大学院生はインターカレッジへの出場が認められていないので、現在は昨年優勝した全国国公立大会での連覇に向けて日々努力しています